



最上総合支庁玄関前サンパチェンス

最上エコポリス通信

mogami ecopolis tsushin



2024年8月号 山形県最上総合支庁 隔月発行
最新情報はツイッターでご覧ください

最上地域における事業の進捗状況や課題を審議しました 『第1回最上地域議員協議会』

7月19日、最上総合支庁において「第1回最上地域議員協議会」を開催し、最上地域選出の県議会議員4名に出席いただき、最上地域における事業の進捗状況や課題について審議を行いました。

審議に先立ち、柴崎最上総合支庁長から最上地域経済の業況、農作物の生育状況、東北農林専門職大学と地域との連携に向けた取組み等について説明を行いました。

その後、各委員から、東北農林専門職大学と地域との交流状況、外国人労働者の受入れ拡大に向けた支援、空き家の利活用対策等について質疑がなされ、各分野にわたって活発な意見交換が行われました。

[総務課 29-1211]



東北農林専門職大学と地域との連携・協力に向けた 『最上地域懇談会』

7月4日、東北農林専門職大学と地域との連携・協力に向けた『最上地域懇談会』が東北農林専門職大学で開催されました。

懇談会では、優れた技術と経営力・国際競争力を身に付け、本県ひいては東北・日本の農業・森林業のリーダーとなる人材育成を目的に開学した東北農林専門職大学が、地域とともに発展し魅力ある大学となるよう、最上地域の農林関係等団体の代表及び市町村長が吉村知事、神山学長等県関係者と意見を交わしました。

出席者からは、大学とともに人材育成や共同研究等を進めることによる農林業の発展や、若い世代との交流による地域活性化などへの期待が寄せられ、今後は、大学と地域との連携体制づくりが必要との意見が出されました。

吉村知事からは「大学が地域の支援のもと、この地にしっかりと根付いて発展することが、最上地域の発展につながる」とのお話がありました。

いただいたご意見は、今後の大学と地域との連携・協力に向けた検討に活かしてまいります。

[連携支援室 29-1235 東北農林専門職大学 22-1527]



東北農林専門職大学新入生バスツアー2024 第2弾を開催しました！

7月6日、東北農林専門職大学新入生バスツアー2024 見て！食べて！体験して！『最上の魅力を発見・体感しよう！！』の第2弾を開催しました。このツアーは、今後4年間、学びや生活のフィールドとなる最上地域の魅力を知り、体感することで、最上地域への愛着や地域住民との交流、地域活動への参画につなげていきたいとの趣旨で開催したものです。当日は、4名の学生を含め5名に参加いただき、大蔵村の肘折温泉や四ヶ村の棚田、最上町の旧有路家住宅、新庄ふるさと歴史センターなどを巡りました。

四ヶ村の棚田では大蔵村棚田米生産販売組合の須藤組合長から、棚田とともに発展してきた地域の暮らしや文化、保全の重要性などを説明していただきました。新庄ふるさと歴史センターでは、8月24日から開催される「新庄まつり」の歴史や山車づくりなどについて説明していただきました。

参加者からは「見るだけでなく深く話を聞くことで、より地域のことを知ることができた」「地域の歴史・風土を他の学生にも伝えたい」「新庄まつりに是非行きたい」との感想が聞かれました。

引き続き、大学と地域との連携促進に取り組んでまいります。



[連携支援室 29-1235]

新庄・最上ジモト大学 2024 開校！

“高校生が旅立つ前に学ぶコト”をキャッチフレーズに、学校では学べない、地元のヒト・モノ・コトを地域の大人と一緒に学ぶ「新庄・最上ジモト大学プログラム」が今年度もスタートしています。

今年度のパンフレットデザインは、昨年度に引き続き新庄北高等学校の生徒が作成しました。不安や悩みを抱えながらも、明るい未来を掴みとろうと羽ばたく高校生を表現した、素敵なデザインになっています。

6月8日・9日に開催した高校生企画プログラム「真室川ナビゲーションスポーツ講習会」を皮切りに、市町村や企業が様々な工夫を凝らしたプログラムが続々始まっています。大雨の影響で、残念ながら「第5回最上小国川鮎釣り甲子園大会」などの一部プログラムは中止または延期となってしまいましたが、8月以降も多彩なプログラムが順次開催される予定です。

また、8月2日・3日には、最上地域の若者を対象とした大規模交流会「居盛家フラットホーム」をゆめりあで開催しました。延べ83名の方にご来店いただき、地元の話や将来の話などで終始盛り上がりつつある様子でした。

引き続き、意欲ある若者と地域とのつながりづくりを力を入れてまいります。 [連携支援室 29-1236]



やまがた移住・交流フェア2024

6月16日、東京都で「やまがた移住・交流フェア2024」を開催しました。最上地域からもブースを出展し、仕事や住まいなど、移住に関する疑問や悩みにお答えしました。移住を考えている方と直接お話ししながら、最上地域の様々な魅力や暮らしの豊かさをPRすることができました。

相談ブースのほか、会場には山形を体験できるコーナーが設けられ、最上地域からは大蔵村の「こけしの絵付け体験」が大変好評でした。

そのほか、各市町村が特色を出しながらブースを設置したり、実際に山形に移住された先輩移住者が個別に相談に乗るなど、様々な催しを行ったこともあり、フェア全体で合計252組 345名と昨年を大きく上回る多くの方にご来場いただくことができました。

今後も、最上地域での暮らしの魅力を発信し、移住を検討している方に届くよう広く情報発信を行いながら、オール最上で移住者へのサポートに取り組んでまいります。 [連携支援室 29-1238]



最上地域みんなで子育て応援団



マルシェ

7月6日、新庄市ゆめりあにて「～最上地域みんなで子育て応援団～ moco マルシェ」を開催し、440名以上の方にご参加いただきました。

第1部は保育園児による和太鼓演奏とダンス発表。見事なパフォーマンスを見せてくれました。続いて登場したご当地ヒーロー「ユメリオン」に子どもたちは大興奮！最後は、ユメリ音頭をみんなで一緒におどり、笑顔と歓声が会場に広がりました。

第2部では、輪投げや的当て、赤ちゃんコーナー、スーパーボールすくいなどの遊びのブース、高校生ボランティアによる紙コップタワーや工作など家族で楽しめるブースが勢ぞろいし、子供服おさがり販売、リサイクルブックブースでは募金活動も行われました。

地域の子育てを応援する催しとして「どのブースもとても楽しかった」「小さい子から大きい子まで遊べて良かった」などの声をいただくことができました。今後も最上地域の子育てをみんなで応援していきます。

[子ども家庭支援課 29-1245]



最上地区放課後子ども指導者等研修会

6月18日に、最上総合支庁にて「第1回最上地区放課後子ども指導者等研修会」を開催し、放課後児童クラブ・放課後子ども教室の支援員など57名が参加しました。

県立保健医療大学特任教授の佐竹 真次先生を講師にお迎えし、「気になる子への理解と保護者支援」をテーマに、発達障がいのある子どもやその保護者への支援について学びました。参加者からは、「具体例をもとにした解説がとてもわかりやすかった」、「児童一人一人に寄り添った支援をしていきたい」、「教えていただいた対応を今日から実践したい」などの感想が寄せられました。日頃の支援について見直すことのできた有意義な研修会となったようです。

県では、今後とも放課後児童クラブ・放課後子ども教室の支援員等の資質向上に取り組んでまいります。

[子ども家庭支援課 29-1221]



企業と連携した適塩ランチの提供

生活習慣病を予防し健康寿命を延伸するためには、働く世代への健康づくりの支援が重要です。

7月12日、山形航空電子株式会社では、社員の健康保持増進の一環として、最上総合支庁と連携し「適塩ランチ」を社員食堂にて提供しました。社員のみならず「日頃の食事で塩分を気にするきっかけになった」などの感想が聞かれました。

同社では、より健康的な食生活を実践していくきっかけとなるよう定期的に適塩ランチを実施し、社員への継続的な啓発を行う予定です。



レシピはこちらから↓



[地域健康福祉課 29-1267]

「東北のへそ」三県交流まつりを開催しました

7月20(土)、21日(日)に仙台市勾当台公園市民広場で、宮城県大崎地域、秋田県雄勝地域、山形県最上地域の観光・物産・郷土文化をPRする、「東北のへそ」三県交流まつりを開催しました。

最上地域からはグルメや特産品を販売する13店が出店。会場ステージでは、未来創造戦士ユメリオンやご当地キャラクターたちが最上地域の観光PRをしてくれました。

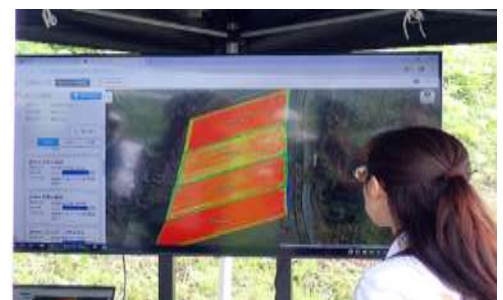


[観光振興室 29-1312]

ドローンによる水稻の生育診断の実演会を開催しました

7月2日、戸沢村岩清水の水田において、市町村、JA、生産者など約30名の参加のもと、穂肥量を判断する生育診断の省力化を目的としたドローンによる実演会を開催しました。実演会ではドローンから撮影した航空写真を基に生育量を診断しました。水稻栽培では、穂肥は食味等の品質と収量に影響する重要な作業です。従来は7月上旬の稲の葉色等を水田1枚ずつ測定し、穂肥の量と時期を判断していましたが、ドローンに搭載したカメラで生育量を解析することで広範囲を短時間で診断することが可能となります。今回の実演では、肥料の散布ムラ等による生育ムラが明らかになり、今後の肥培管理の改善につながるデータが得られました。農業技術普及課では、スマート農業技術普及と稲刈りまでの水管理等の基本技術の徹底により高品質・良食味米生産を支援しています。

[農業技術普及課 29-1333]



産地直売所の売上アップに向けて研修会を開催しました

7月10日、最上地域の産地直売所の担当者等を対象に、販売力向上に向けた取組を学ぶ研修会を産地研究室で開催しました。

株式会社 産直新聞社の毛賀澤明宏氏を講師に招き、「産地直売所の売上アップに向けて～新たな客層、新たな出荷者、新たな産直事業を目指して今やるべきことを考える～」をテーマに講演いただきました。

講演では、コロナ禍を経た全国の直売事業の状況に加え、中山間地の直売所が直面する課題とその打開策や、経営改善事例として、販売データの分析と活用により販売額が上がった事例、堆肥活用によるブランド化、惣菜・弁当などの品揃えなどの取組が紹介されました。

研修会には、直売所の会員やスタッフ、役員、関係機関など約30名の参加があり、参加者からは、POSレジデータの活用等への質問のほか、「産直の問題は皆同じく抱えている。何から取り組むか、まずやってみることが大切だ」、「販売データ分析の重要性を感じた。会員とよく対話し、売上に結び付く出荷依頼をしたい」といった意識の共有がなされました。

今後は、POSレジデータの分析・活用など、各産地直売所の売上アップに向けた具体的な取組を支援していきます。



[農業技術普及課 29-1328]

ついにデビュー！最上産「やまがた紅王」

令和4年に先行販売を開始し、昨年に本格デビューしたさくらんぼの大玉新品種である「やまがた紅王」！

今年度から、最上地域でも本格的な出荷が始まりました。

6月21日、最上地域のさくらんぼ生産者を対象とした「やまがた紅王」出荷調整研修会を産地研究室で開催しました。

研修会では、参加者全員で2L以上の大玉であることや色づき程度等の出荷規格を確認した後、最上地域の生産者が丹精込めて育てた3L以上の「やまがた紅王」のパック詰め研修を行いました。

参加者の皆さんは、最初は八角形のダイヤパックに戸惑っていましたが、研修が終わるころにはコツを掴み、上手になっていました。

喜ばしいことに、参加者が持ち寄った最上産「やまがた紅王」は、どれも3L、4Lの大玉で色づきも良く、高品質でした。

次年度はさらに生産量も増える予定で、品質ともに大変期待しているところです。



とっても大きい「やまがた紅王」



ダイヤパック詰め研修の様子

[農業振興課 29-1317]



オールもがみ 若者定着・人材確保推進会議



6月25日、最上総合支庁において開催し、最上地域の企業や経済団体、教育機関、行政機関など関係者50名に参加いただきました。令和5年度に実施した「地元で働く若者の意識調査」の結果を踏まえ、「オールもがみ」による若者の地元定着・人材確保に向けた今年度の取組等について協議しました。

山形大学の松坂暢浩教授より『オールもがみで考える「採用・育成・定着」のために必要なこと』と題して、地域での人材確保のために必要なことについて御講演いただきました。また、東北経済産業局地域経済課の成田真課長補佐より「人材確保に関する地域の取組について」と題して、人材確保の課題解決に向けた各県での取組事例等について御講演をいただきました。人手不足が深刻化するなか人材確保に向けて地域一丸となって、引続き取組んでいくことが必要であることを確認した会議となりました。

[地域産業経済課 29-1306]



地元のダム「神室ダム」を探検～金山町立金山小学校～

6月20日、金山町立金山小学校の4年生約40名が、地元にある神室ダムを訪れました。

神室ダムは金山川上流にある多目的ダムで、子どもたちはその重要な役割を学びました。その役割は洪水の防止、流水の正常な機能の維持（川の生態系を守ったり、沿川の農作物に水を供給したり）、水道用水の供給、水力発電といった生活に直結したものです。

河川砂防課職員の説明の後、普段立ち入ることができないダムの内部を探検し、トンネルのような監査廊や急な階段を通りました。初めての経験に少し怖がっていた児童もいましたが、特別な体験になったと思います。

子どもたちはダム内部が一年を通じ一定の温度であること、自分たちが歩いている場所はダム湖の水の中であることを聞き驚いていました。

この体験を通じて、ダムがいかに身近な存在で大事なものであるかを理解していただけたと思います。

[河川砂防課 29-1406]



土砂災害出前授業～新庄市立本合海小学校～

県では近年多発している集中豪雨等による土砂災害に備えるため、市町村と連携しながら、平成24年度より土砂災害警戒区域にある小学校を対象に出前授業を行っております。

今年度は尾花沢市立常盤小学校に続いて2回目の開催で、7月2日に新庄市立本合海小学校の全校児童23名を対象にして土砂災害を想定した避難訓練・出前授業を実施しました。

出前授業では児童に学んでもらうだけでなく、学んだことを子どもたちから家族に伝えていただくことで、家庭のなかで防災について考えるきっかけになればと考えています。

[河川砂防課 29-1407]



・ Information ・

令和6年7月25日からの大雨で被災された方への支援の情報

山形県では相談窓口等を設置しています。

農作物等被害に関する農林水産関係総合相談窓口

- 受付時間 平日の8:30～17:15
- 最上管内の相談窓口設置場所
最上総合支庁農業振興課
- 0233-29-1314



商工業への支援【大雨被害特別金融相談窓口】

- 受付時間 平日の8:30～17:15
- 場所県庁8階 産業労働部商業振興・経営支援課内
- 対応 商業振興・経営支援課金融担当職員が、面談又は電話により対応
- 相談窓口 023-630-2135



「令和6年7月山形県大雨災害義援金」を募集しています。

- 受付期間 令和6年12月27日まで
- 募金箱設置場所 県庁ロビー、各総合支庁・地域振興局、県立図書館、文翔館、やまぎん県民ホール、山形県アンテナショップ「おいしい山形プラザ」（東京都内）計13か所
- その他 専用口座でも受け付けております。



山形県のホームページでは「令和6年7月25日からの大雨に関する情報について」掲載しています。

詳しくはこちらへアクセス→



若いあなたの命を守るために～無料でがん検診の機会を提供します～

最上町の大場組から毎年、「若者のがん検診の受診促進に役立ててほしい」と県の健康長寿県やまがた推進基金に多額の寄付をいただいております。県ではその基金をもとに、20代から30代の若者を対象にがん検診・検査の無料体験、健康教室の事業を継続して行っています。

がんの早期発見、治療は命を守ることに繋がります。まだ受診経験のない方は、ぜひこの機会に受診してみませんか。また、40代以上の方は、毎年、職場や市町村でがん検診を受診しましょう。

【大腸がん検診+下記の検診・検査を体験できます】

- 大腸がん検診（必須）
- 肺がん検診（希望者）
- 胃がん検査（希望者）※5年に1度
- 乳房超音波検査（女性希望者）

★予約と検査の詳細は県HPをご確認ください↑



9月は健康増進普及月間です！

1に運動 2に食事 しっかり禁煙 良い睡眠

～健康寿命の延伸～

生活習慣病の予防には、日々の積み重ねが大切です。

この機会に自分の生活を見直してみましよう。

[地域健康福祉課 29-1267]

最上地域「やまがた縁結びたい」人材育成セミナー

あなたも縁結びやってみませんか？

日時：9月12日（木）13:00～15:00

場所：ゆめりあ2階会議室

講師：一般社団法人 日本結婚支援協会

代表理事 田口 智之 氏

いま、独身者をめぐる環境や考え方が大きく変化しています。ボランティア仲間として結婚を望む方の幸せづくりを「あなた」も応援してみませんか。

「婚活をめぐる最近の情勢」や「独身者を支えるためのコツ」を解説します。

申込みは下記の電話番号までお願いします。

[子ども家庭支援課 29-1245]



お肉はよく焼いて食べましょう！

お肉は鮮度にかかわらず**食中毒の原因となる菌**がついていることがあります。

お肉をおいしく**安全に食べる**ためにも、お肉を調理する際の**ポイントを確認**しましょう。

1. 菌をつけない（しっかり洗う）
手を洗い、調理器具も使用の都度洗おう。
2. 菌を増やさない（低温で保存）
菌を増やさないために、低温で保存しよう。
3. 菌をやっつける（しっかり加熱）
食品の中心部まで75℃・1分以上で加熱しよう。

[保健企画課生活衛生室 29-1261]



最上地域みんな子育て応援団

新庄まつり子育て支援事業

地域における子育て支援事業として、新庄まつりの期間中に、下記の日程で「**幼児用トイレ、授乳・おむつ交換スペース**」を提供いたします。

是非活用していただき、新庄まつりを親子で楽しんでいただけたら幸いです♪

日時：8月24日（土）18:00～20:00

：8月25日（日）10:00～17:00

：8月26日（月）10:00～17:00

場所：子育て支援センターmoco's（モコズ）

（新庄市本町1-7）

南本町十字路近く、スタイルハート内）

[子ども家庭支援課 29-1245]

屋外広告物適正化旬間です！

9月1（日）から10日（火）までは
屋外広告物適正化旬間です。

近年、屋外広告物（看板等）の老朽化・整備不備により、全国各地で倒壊や破損による事故が相次いでいます。

自宅敷地の看板であっても点検義務がありますので、今一度看板の点検をお願いいたします。

[建設総務課 29-1376]



発行日：令和6年8月16日

発行元：山形県最上総合支庁総務企画部総務課 総合案内窓口

電話：0233-29-1360 FAX：0233-23-2605

Twitter

HD

